

## 第 27 回米子市水道事業審議会 会議録

- 開催日時 令和元年 10 月 28 日(月)  
午後 1 時 26 分～午後 2 時 40 分
- 開催場所 米子市水道局大会議室
- 出席者
- 委員(敬称略)**：稲田 祐二、田中 俊行、井藤 津加代、伊藤 徹、  
香川 司郎、長栄 素子、中山 寿子、八尾 俊一、大和 紀恵、  
吉居 努、和田 季子(欠席：新田 ひとみ、祝部 大輔)
- 米子市水道局**：細川水道事業管理者、松田副局長兼計画課長、  
金田次長兼総務課長、安村次長兼給水課長、伊原営業課長、  
舩川水質管理課長、石田施設課長、松田境港営業所長、本池主査  
兼浄水課水源管理担当課長補佐、住田主査兼施設課改良担当課長  
補佐、湯崎総務課長補佐兼財務担当課長補佐、羽柴総務課係長  
(事務局) 岩坂計画課長補佐兼企画広報担当課長補佐、  
白須計画課係長、井塚計画課係長
- 日程
- 1 議題
- (1) 平成 30 年度米子市水道事業会計決算状況について  
(2) 深井戸 4 号井更生工事について(報告)  
(3) その他
- 2 事務連絡
- 公開又は非公開の別  
公開
- 傍聴者数(報道関係者を除く)  
1 名
- 会議資料の有無  
有り
- お問い合わせ先  
米子市水道局計画課企画広報担当(TEL.0859-32-6112)

## 1 議題（議題の概要及び質疑）

### (1) 平成 30 年度米子市水道事業会計決算状況について

＜案件説明：湯崎総務課長補佐兼財務担当課長補佐＞

#### 業務の状況について

本年度は平成 30 年度から令和 9 年度までの 10 年間を計画期間とする米子市水道事業基本計画（新水道ビジョン）の初年度にあたる。引き続き管路等の維持管理を柱とする震災対策の実施や、持続可能な安定給水を実現するため、各水源地において老朽化施設の更新や長寿命化対策等を実施した。米子市水道局では米子市、境港市、日吉津村の 2 市 1 村に給水しており、給水人口は対前年度比マイナス 0.4%と微減、給水戸数はプラス 0.4%と微増で、近年はこのような傾向が続いている。年間配水量はマイナス 2.2%、年間給水量はマイナス 1.5%となった。その年の天候にも大きく左右される要素ではあるが、人口の減少や節水機器の普及、節水意識の高まりによって、今後も減少傾向は続いていくものと見込んでいる。有収率は 0.7%増となり向上した。

#### 経営状況について

水道事業には地方公営企業法の規定が適用されており、会計処理の原則として損益取引と資本取引を明確に区分することや、複式簿記による会計処理をするよう明記されている。これは 1 年間の経営成績を適切に評価するためであり、減価償却という制度が導入されており、単年度の営業活動に伴う損益取引「収益的収支」と、施設更新など中長期的な事業への投資「資本的収支」の 2 つに分けて会計処理を行っている。

#### 収益的収支の決算について

1 年間の営業活動によって生じる収益的収支のうち、総収益は 1.2%減。このうち水道料金収入である給水収益は 1.4%減であり、給水収益の減が総収益減少の要因となっている。凍結災害の影響等もあり近年は横ばい、やや減で推移しているが、ここ数年間の平均値ではマイナス 0.6%程度。一方で、総費用は 5.5%増加した。支出増加の主な要因は、営業費用のうち固定資産除却費として支出した旧車尾水源地管理棟の解体工事や法勝寺川水管橋の撤去工事などによるもの。この 2 つの撤去工事で 1 億 5,500 万円を支出しており、ほぼ増加費用分に相当する額となっている。

#### 資本的収支の決算について

建設改良事業の収支は、管路更新と水源施設更新に大別される。

管路更新は、①土木工事や道路改良工事に伴う一般的な配水管改良事業、②耐震化対策を含む優先度を考慮した老朽管更新事業（10件発注）、③夜見町の鉄工センターを通り境港へ向かう基幹管路更新事業（2件発注、財源として一部補助金を活用）、④弓浜地区の国道431号線水管橋更新事業がある。次に水源施設は⑤本市の主要水源である戸上水源地内の更新工事、⑥日下水源地や河岡水源地の更新工事などを実施した。

#### 資本的収入及び支出について

資本的収入は、老朽管更新事業などに充てる企業債収入2億8,820万円、基幹管路更新事業に対する補助金収入5,308万8千円など、合計5億456万3千円。資本的支出は建設改良事業費9億6,841万円、企業債の元金償還金5億4,760万3千円で、合計15億1,601万3千円。この結果、不足額10億1,145万円が生じたため、損益収支で生じた内部留保資金などで賄っている（資料P3）。損益収支のうち、現金支出を伴わない減価償却費などの損益勘定留保資金9億1,479万2千円、純利益の累積である繰越利益剰余金から5,027万3千円、そのほか消費税調整額で補填した。

#### 利益剰余金の推移について

最終的な剰余金の額は、将来の企業債償還に充てるための減債積立金2億3,570万円、水源涵養林取得積立金2,949万5千円、今後の建設投資に充当する繰越利益剰余金25億9,519万6千円となっている。

#### 公営企業に係る経営比較分析について

資料P6からは総務省が公表を求めている12の経営指標を用いて、類似団体（給水人口15万人以上30万人未満事業体の全国平均値）と本市の経営比較分析を記載しており、概ね健全な経営を示していると判断している。全国的に老朽化が進んでいるが、短期間で改善できるものではなく、限られた財源のなかで長期的な視野で優先度を踏まえた更新が必要となっている。

#### 質疑応答

【田中副会長】 今回の決算では当年度純利益が対前年度比で2億円減っている。先程の説明にもあったが詳しくご説明いただきたい。

【湯崎補佐】 当年度純利益の減は、主に維持修繕費が増加したためであるが、旧車尾水源地管理棟と法勝寺川水管橋という大規模撤去工事を実施しており、この2件で1億5,500万円を要したことが大きな理由となっている。

【田中副会長】 収益的支出の営業費用が年々増加しているが、維持修繕

費も増加していく状況のなかで、増加傾向は今後も続くと思  
込んでいるのか。

【湯崎補佐】大規模撤去工事は30年度で完了した。また、営業費用には減価償却費も含まれるが、近年、配水池や庁舎建設など大きな資産取得が続いた影響で減価償却費が相当分増加していることもあるが、今後は落ち着いていくと思込んでいる。

【稲田会長】経営比較分析（資料 P6）④企業債残高対給水収益比率だが、たいへん判りやすい指標だと思うが、類似団体に較べてかなり高水準にある。今後の見通しについて伺いたい。

【湯崎補佐】給水収益が減少していく将来予測のなかで、企業債残高を計画的に抑制していく必要がある。資料 P12 に建設投資額と企業債残高の推移をグラフでお示しした。平成 17 年度には 157 億あった残高は大規模工事の返済が終わったため次第に減少していたが、配水池と庁舎建設によって建設投資額が増加したため、平成 30 年度には 128 億となっている。今後は水道ビジョンによってお示ししたように、この 10 年間で少しずつ減らし、企業債残高を 120 億程度まで抑制するよう事業運営を意識していく予定である。

【稲田会長】企業債の借入利率は固定されているのか。それともデフレ局面を反映するなど毎年見直されるものなのか伺いたい。

【湯崎補佐】固定利率である。かつては年利 5 % 程度だったが、近年は概ね 1 % 以下で設定されており、配水池等の大型工事の借入は比較的 low 利の借入で賄うことができた。

【中山委員】資料 P7 の⑦供給単価について伺う。指標からみても他都市と比較すると米子市は水道料金がかなり安く設定されていると思うが、そろそろ今後の値上げなどは予定されているか。

【細川管理者】先日の新聞報道もあり、注目されていることと思う。昨年公表した新水道ビジョンの 10 年計画では、給水収益の減少がこのまま推移すると、令和 6 年度には収支バランスが崩れ、何らかの資金調達を必要とすると思込している。ただ、本日も説明したとおり、現状では 4 億円の黒字が計上できているが、給水収益が徐々に減っていることも事実。収支バランスの推移を見ながら判断していきたいと思う。

【田中副会長】先程の質問でも、純利益の減少や維持修繕費の増加によって財政的に厳しくなっていくのではないかという意味からお尋ねしたが、そのあたりの見通しはいかがか。

【細川管理者】来年度、あるいは再来年度に赤字になるといった状況で

はないが、やはり今後 10 年の間には財政的に厳しくなっていくと予測している。老朽化施設の更新は水道事業として必ず進めなければならない。進めていくと決めているので、収支バランスをみながら、更新事業は一定程度の水準で進めていく。他の事業体では本来やるべき更新をせずに黒字経営という場合もあるので、やるべきことはしっかりとやっていく。そのうえで資金調達の手段としては、水道料金の見直しを検討することになると考えている。その時期がきたら料金についてこの審議会にお諮りし、ご審議いただくことになる。

【稲田会長】関連して、国からは水道事業の民営化、コンセッション方式といった話も出ているし、広域化や共同化の検討も進めるよう指導があると聞く。小さな水道は大きな水道で面倒をみるようにといった動きがあるとも聞くが、現状はどうか。

【細川管理者】鳥取県では広域化の勉強をという主旨で、昨年から東・中・西の流域別に県が主催されて検討会を開催しているが、具体的な動きにはなっていない。米子市では既に境港市、日吉津村との広域化を実施しており、これ以上の給水区域の拡大は財政的な面からも困難だと考える。

## (2) 深井戸 4 号井更生工事について

＜案件説明：本池主査兼浄水課水源管理担当課長補佐＞

戸上水源地で実施したドーナツドリル工法について、資料に基づいて説明した。

### 質疑応答

【田中副会長】資料には取水量の減少、水質の変化とあるが、井戸の老朽化によって水質がどのように変化しているのか。

【船川課長】戸上水源地では日野川の伏流水を扱う福市水源、浅井戸、深井戸から取水しているが、一部に日野川本流の影響と思われる変化が水質基準の範囲内で見られるという状況である。

【田中副会長】深井戸 4 号の他にも更生工事を予定しているか。

【細川管理者】水道ビジョンの事業計画にも組み込んでいるが、今回の工事によって効果があった半面、費用が 5,200 万と高額であり、計画どおり毎年 1 井ずつ工事を進めるかどうか、今後費用対効果を見ながら慎重に検討する必要があると思う。

【吉居委員】深井戸は岩盤の下の層から地下水を汲み上げていると理解しているが、実際に日野川の影響を受けるものなのか。

【船川課長】日野川の影響を受けていると思われるのは、伏流水であ

る福市水源と浅井戸である。

【吉居委員】河川の影響を受けると聞いて心配するのは、先日も台風による浸水被害が関東や東北で多発した。戸上水源地も河川が氾濫すれば壊滅的な被害を受けることになる。その辺りも十分に検討して、命の水をしっかりと守ってもらいたい。

【細川管理者】委員ご指摘のとおり、日野川、法勝寺川の氾濫対策は重要である。水道局では浸水マニュアルの整備を進めているが、国に対しても堤防の強化を早急に要望してまいりたい。

【香川委員】米子の水はおいしいとよく言われるが、井戸の深さによって水の味に違いがあるものか。

【船川課長】深さによって味が変わることはないが、水の味わいは水温や個人差もあるので一概に例えにくい。全般的に米子の水はミネラル分を適度に含んでおり、飲みやすい水である。

【松田副局長】地下水の特徴として、年間を通して水温が一定であることが挙げられる。この点もおいしい水と評価いただける要素かと考えている。

【吉居委員】もし大停電が発生したときに、水源地の自家発電機ほどのくらい持つのか。

【本池主査】ポンプの運転台数など負荷にもよるが、戸上水源地ではおよそ10時間の電力供給が可能。

【吉居委員】水道の供給は消防とも関連するので、安定供給可能な日数を確保されるよう努力されたい。

【細川管理者】災害の規模にもよるが、必要であれば節水広報等も実施しながら、できる限り安定供給に努めたい。

### (3) その他

【中山委員】最近、自治会で原発事故を想定した避難訓練があったが、水道局として原発事故のマニュアルを整備されているか。

【細川管理者】米子市の地域防災計画のなかに組み込まれており、もし水道に何かあった時に行動するというイメージ。水源は30km以上離れているので直ちに断水するという事はない。

【吉居委員】今月から改正水道法が施行されているが、広域化等の面で何か変化が起きているか。

【細川管理者】県主催の流域別広域化検討会が西部総合事務所等で開催されているが、具体的な動きにはなっていない。

【稲田会長】他になければ、以上で閉会とする。